竜王町　学校施設の長寿命化計画

令和３年１月

竜王町教育委員会

目　　次

（１）学校施設の長寿命化計画の背景・目的・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

（２）学校施設の目指すべき姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

（３）学校施設の実態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

（４）学校施設整備の基本的な方針等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

（５）基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等・・・・・・・・・・・・・　18

（６）長寿命化の実施計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19

（７）長寿命化計画の継続的運用方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

様式１－１

（１）学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

①　背景

竜王町の教育施設は、学校教育にかかるものとして２幼稚園・２小学校・１中学校の５校園があり、これらと併せ、中学校に隣接する形で１つの学校給食センターが立地している。

教育施設としては平成元年度に竜王西幼稚園が分離開園してからの 30 年来新規開校はなく、おおむね安定した状況の中で推移してきているものの、昭和 46 年竣工の竜王小学校を始め、概ね築 30 年を経過し老朽化が進行している。

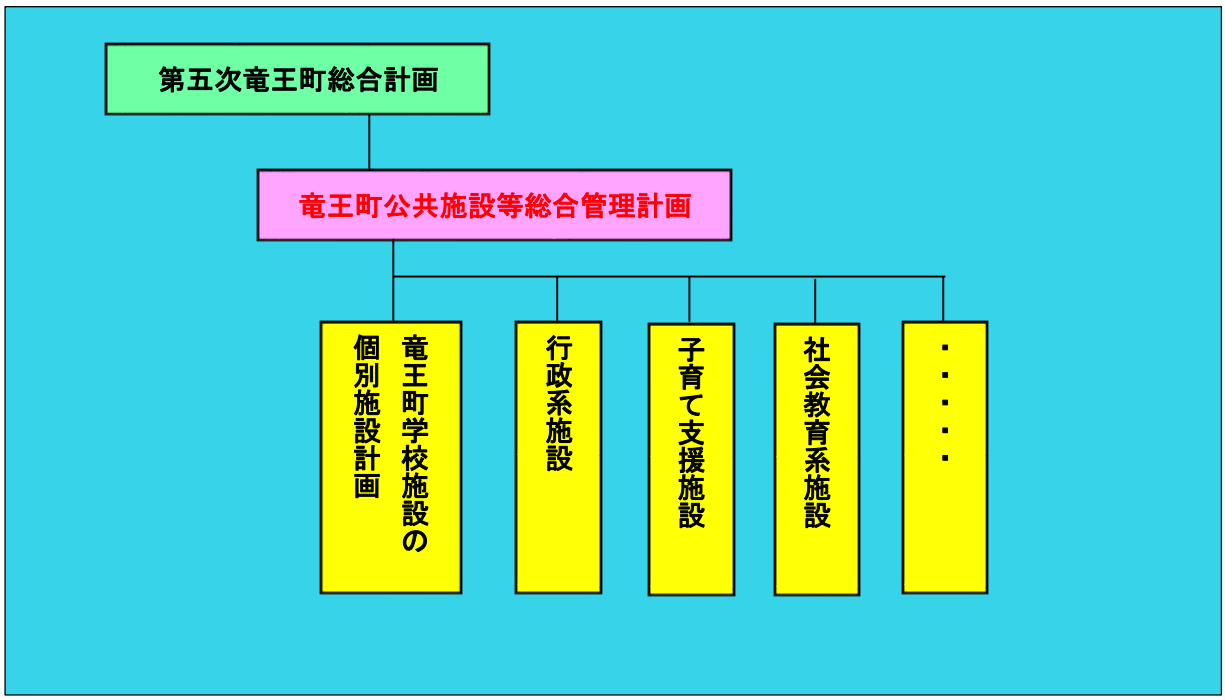
しかしながら、今後も引き続いて良好な教育環境を維持するためには、今後、大規模改修や建替えに多額の費用を要することになることから、これらの適正な維持管理も含めた計画を策定していく必要がある。

ただし、既にコンパクトシティ化構想において建替え移転が検討されている竜王小学校および竜王幼稚園においては長寿命化計画から除くこととする。

②　目的

「竜王町学校施設の個別施設計画（以下、「本計画」という。）」は、上記の背景を踏まえて学校施設を総合的観点で捉え、長寿命化できるものは長寿命化し、適正に改修・建替えするとともに、教育環境の質的改善も考慮しながら改修・建替え等を検討するための詳細判断の優先順位を設定しつつ、これに要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として策定する。

なお、本計画は竜王町公共施設等総合管理計画に基づく学校施設の個別施設計画として位置づける。



様式１－２

③　計画期間

令和 ３ 年～令和 ３２ 年（ ５ 年ごとに見直し）

令和３年度から令和 32 年度までの 30 年間を整備保全計画期間とします。また、実施実行については、施設の老朽化状況等の実態を継続的に把握し、ＰＤＣＡサイクルによる実行システムを構築します。また、本計画については５年ごとに見直します。

④　対象施設

学校	
小学校	２校
中学校	１校
幼稚園	２園

様式２

（２）学校施設の目指すべき姿

１．安全性

○災害対策

・地震に強い学校施設
・風水害に強い学校施設
・防災機能を備えた学校施設

○防犯・事故対策

・安全で安心な学校施設

２．快適性

○快適な学習環境

・学習能率の向上に資する快適な学習環境
・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また、地域の人々の文化的シンボルとなる学校
・バリアフリーに配慮した環境
・子どもたちや保護者等地域の人々が訪れやすい空間

○教職員に配慮した環境

・教職員に配慮した空間
・教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要なＩＣＴ環境

３．学習活動への適応性

○主体性を養う空間の充実

・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促す空間
・社会性を身につけるための空間

○効果的・効率的な施設整備

・習熟度別指導や少人数指導など、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間
・調べ学習や習熟度別学習、ティームティーチングなどの多様な学習集団、学習形態を展開するための空間
・各教科の授業の中での調べ学習や協働学習、観察、実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのＩＣＴ環境
・各教科等の授業を充実させるための環境

○言語活動の充実

・各教科における発表、討論などの教育活動を行うための空間

○理数教育の充実

・充実した観察、実験を行うための空間

○運動環境の充実

・充実した運動ができる環境

○伝統や文化に関する教育の充実
・伝統や文化に関する教育を行うための環境
○外国語教育の充実
・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間
○学校図書館の活用
・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
・調べ学習や習熟度別学習、ティームティーチングなどの多様な学習集団、学習形態を展開するための空間
・ＩＣＴ環境と連動し、各教科の授業の中での調べ学習や協働学習、観察、実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための空間
・地域に開かれた学校とするための環境
・地域の生涯学習の拠点となる学校施設
○キャリア教育・進路指導の充実
・充実したキャリア教育、進路指導を行うための環境
○食育の充実
・食育のための空間
○特別支援教育の推進
・バリアフリーに配慮した環境
・すべての人にとって安心、快適な空間
・インクルーシブ教育に対応するユニバーサルデザイン
○環境教育の充実
・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール

４．環境への適応性
・環境を考慮した学校施設（エコスクール）

５．地域の拠点化
○地域と学校の協働を進めるコミュニティスクールとしての空間の充実
・安全で安心な学校施設
・バリアフリーに配慮した環境
・地域に開かれた学校とするための環境
・地域の生涯学習の拠点となる学校施設

様式３－１

（３）学校施設の実態

①　学校施設の運営状況・活用状況等の実態

１）対象施設一覧

本町には、小学校２校、中学校１校、幼稚園２園の合計５校園施設があります。小学校全体の延床面積は 12,455 ㎡、中学校は 7,897 ㎡、幼稚園全体は 2,882 ㎡となり、幼小中合わせた延床面積は 23,234 ㎡になります。

（令和２年５月１日時点）

名　称		住　所	延床面積（㎡）	児童生徒数（人）		学級数（学級）	
				通常学級在籍者数	特別支援	通常学級	特別支援
小学校	1 竜王小学校	竜王町大字綾戸 275	6,334	377	25	12	6
	2 竜王西小学校	竜王町大字山面 1-1	6,121	287	11	12	3
小学校　計			**12,455**	**664**	**36**	**24**	**9**
中学校	1 竜王中学校	竜王町大字橋本 15	7,897	336	12	11	2
中学校　計			**7,897**	**336**	**12**	**11**	**2**
幼稚園	1 竜王幼稚園	竜王町大字綾戸 250	1,621	79		4	
	2 竜王西幼稚園	竜王町大字山面 1-1	1,261	51		3	
幼稚園　計			**2,882**	**130**		**7**	
合計			**23,234**	**1130**	**48**	**42**	**11**

様式３－２

２）児童生徒数及び学級数の変化

＜児童生徒数＞　（人）

	これまでの推移									将来推計			
	1976	1981	1986	1991	1996	2001	2006	2011	2016	2021	2026	2031	2036
	昭 51	昭 56	昭 61	平 3	平 8	平 13	平 18	平 23	平 28	令 3	令 8	令 13	令 18
小学校児童数	719	912	1,065	1,133	1,146	993	772	666	699	674	579	417	301
中学校生徒数	375	370	480	588	594	531	439	347	331	352	345	271	200
幼稚園園児数	285	335	297	330	296	312	250	251	198	115	98	72	53
合計													

＜学級数＞　（学級）

	これまでの推移									将来推計			
	1976	1981	1986	1991	1996	2001	2006	2011	2016	2021	2026	2031	2036
	昭 51	昭 56	昭 61	平 3	平 8	平 13	平 18	平 23	平 28	令 3	令 8	令 13	令 18
小学校	19	24	28	37	35	34	32	29	32	30	28	25	23
中学校	11	10	13	18	19	16	15	11	14	13	13	13	12
幼稚園	8	10	9	12	11	15	12	12	12	7	6	6	6
合計													

【小学校】

町立小学校の児童数は、令和２年５月１日現在 700 人（33 学級、特別支援学級９を含む）です。児童数のピークは平成８年（1,146 人）で、現在はピーク時の約 61%、令和 18 年時点では 26%となっています。

【中学校】

町立中学校の生徒数は、令和２年５月１日現在 348 人（13 学級、特別支援学級２を含む）です。生徒数のピークは平成８年（594 人）で、現在はピーク時の約 59%、令和 18 年時点では 34%となっています。

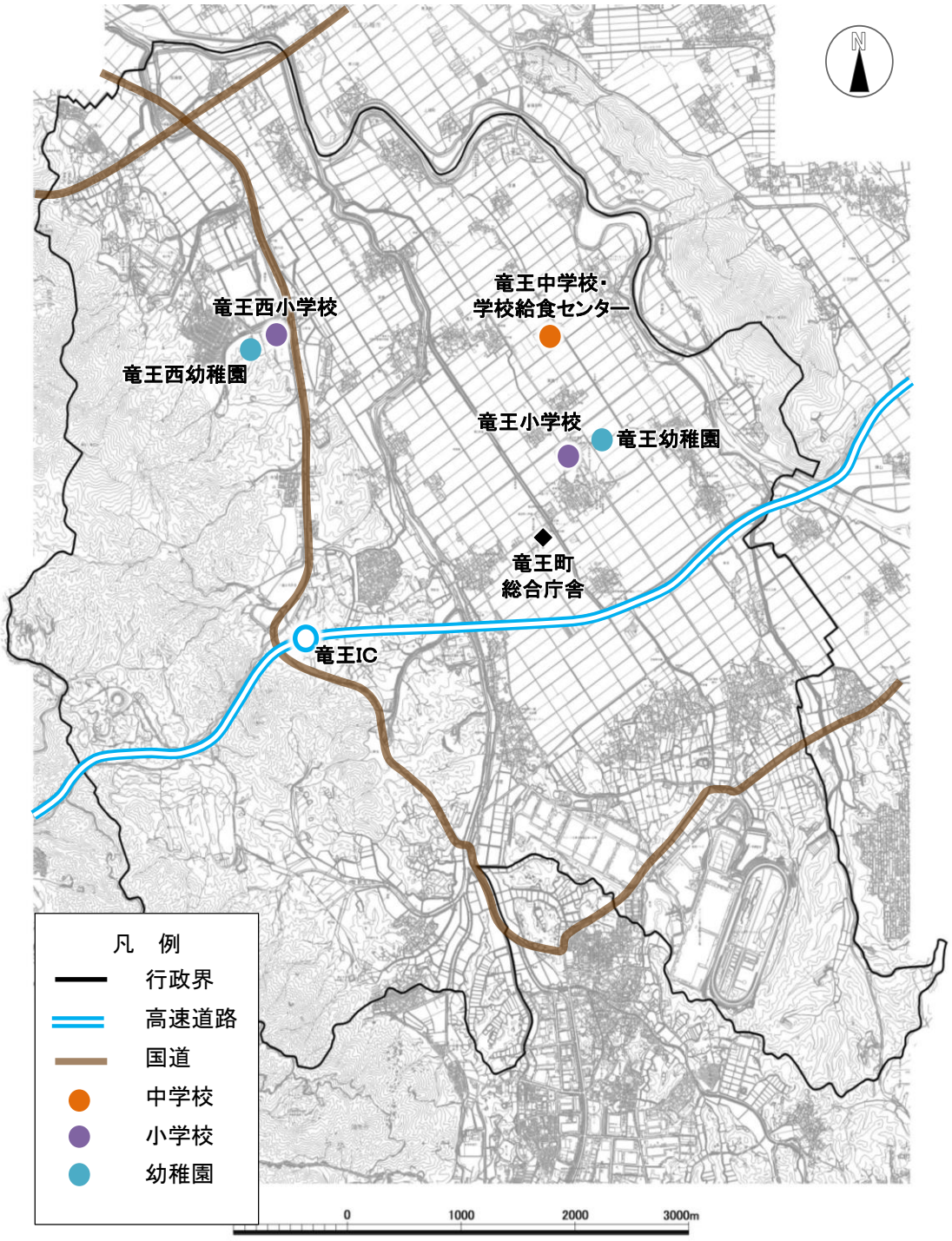
【幼稚園】

町立幼稚園の園児数は、令和２年５月１日現在 130 人（７学級）です。園児数のピークは昭和 56 年（335 人）で、現在はピーク時の約 39%、令和 18 年時点では 16%となっています。

様式３－３

３）学校施設の配置状況

竜王町内に所在する学校園施設は、幼稚園が２園、小学校が２校、中学校が１校あり、また、中学校に隣接する形で学校給食センターが立地しています。



様式３－４

４）施設関連経費の推移

平成 27 年度から令和元年度の５年間の施設関連経費は、約 26 百万円～83 百万円で、５年間の平均は約 54 百万円/年となります。

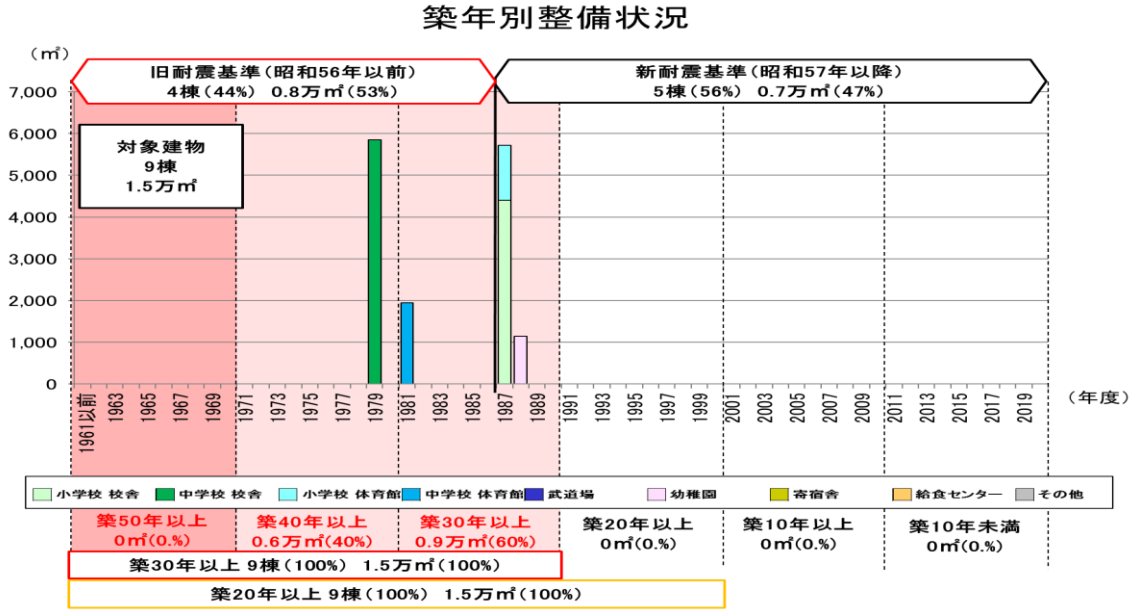
単位：千円

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	５年平均
施設整備費	25,907	11,336	48,168	0	4,212	17,925
その他施設整備費						
維持修繕費	3,596	3,831	5,989	4,297	13,883	6,319
光熱水費・委託費等	26,747	36,242	29,124	28,955	28,430	29,900
施設関連経費合計	56,250	51,409	83,281	33,252	46,525	54,143

様式３－５

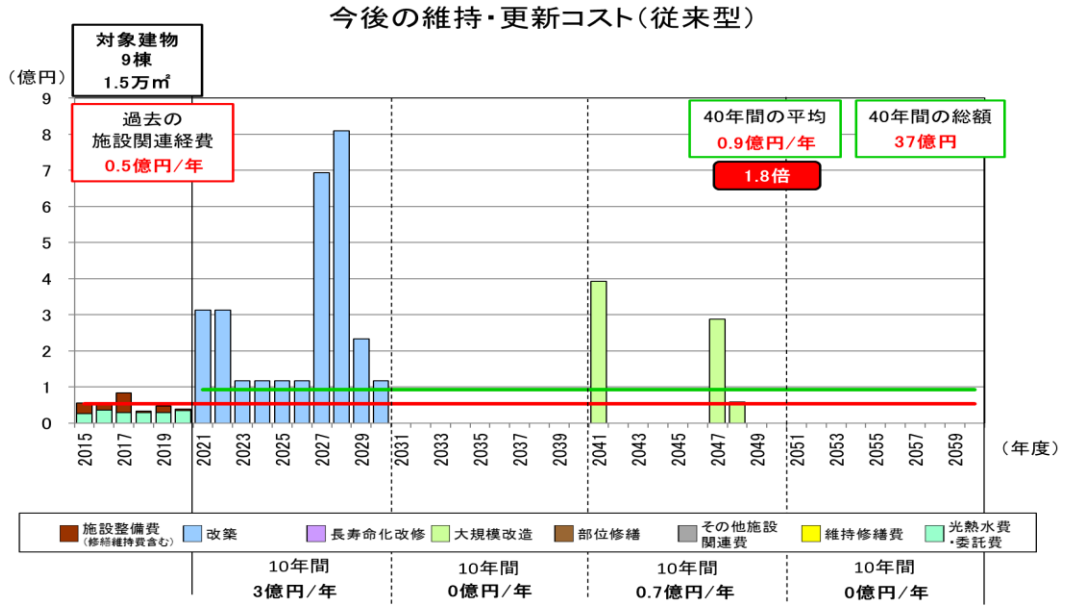
５）学校施設の保有量

計画対象の幼小中学校は、築 30 年以上の建物が 1.5 万㎡(100%)となり、すべての施設で老朽化が進んでいる。ただし、現在計画上には築 50 年以上の建物はないことから、長寿命化による対応の可能性を検討する。



６）今後の維持・更新コスト（従来型）

40 年間で建替える従来の修繕・改修を今後も続けた場合、今後 40 年間のコストは 37 億円(年 0.9 億円)かかる。これは直近５年間の施設関連経費 0.5 億円/年を 1.8 倍上回る。また、今後 10 年間に建替えが集中するため、年３億円平均のコストがかかることとなり、対応策を検討する必要がある。



様式３－６

②学校施設の老朽化状況の実態

１）構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

建物情報一覧表

：築50年以上　：築30年以上　基準 2020

A：概ね良好　C：広範囲に劣化
B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある

建物基本情報														構造躯体の健全性						劣化状況評価							
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積（㎡）	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	備考
						学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度（N/㎟）	試算上の区分							
1	646	竜王小学校	高学年棟	1		小学校	校舎	RC	3	2,397	1971	S46	49	旧	済	済			改築	B	B	B	C	D	62	
2	646	竜王小学校	管理棟	2		小学校	校舎	RC	3	1,698	1971	S46	49	旧	済	済			改築	B	B	B	C	D	62	
3	646	竜王小学校	低学年棟	3		小学校	校舎	RC	1	720	1971	S46	49	旧	済	－			改築	B	B	B	C	D	62	
4	646	竜王小学校	体育館	6		小学校	体育館	RC	2	1,382	1973	S48	47	旧	済	－			改築	B	B	B	B	B	75	
5	647	竜王西小学校	管理棟	1		小学校	校舎	RC	2	1,588	1987	S62	33	新					長寿命	B	B	B	B	C	71	
6	647	竜王西小学校	玄関棟	2		小学校	校舎	RC	2	192	1987	S62	33	新					長寿命	B	B	B	B	C	71	
7	647	竜王西小学校	校舎棟	3		小学校	校舎	RC	2	2,624	1987	S62	33	新					長寿命	B	B	B	B	C	71	
8	647	竜王西小学校	体育館	4		小学校	体育館	RC	2	1,313	1987	S62	33	新					長寿命	C	B	B	B	B	72	
9	3991	竜王中学校	本館棟	1		中学校	校舎	RC	3	2,060	1979	S54	41	旧	済	済			長寿命	A	B	B	B	B	77	
10	3991	竜王中学校	校舎棟	2		中学校	校舎	RC	3	3,472	1979	S54	41	旧	済	済			長寿命	A	B	B	B	B	77	
11	3991	竜王中学校	技術棟	3		中学校	校舎	S	1	319	1979	S54	41	旧	済	－			長寿命	C	B	B	B	B	72	
12	3991	竜王中学校	体育館	10		中学校	体育館	RC	2	1,939	1981	S56	39	旧	済	－			長寿命	A	B	B	B	B	77	
13	7143	竜王幼稚園	管理棟・保育室	1		幼稚園	園舎	RC	1	651	1975	S50	45	旧	済	－			改築	B	B	B	C	C	66	
14	7143	竜王幼稚園	遊戯室・保育室	2		幼稚園	園舎	RC	1	907	1975	S50	45	旧	済	－			改築	B	B	B	C	C	66	
15	7144	竜王西幼稚園	園舎	1		幼稚園	園舎	S	1	1,148	1988	S63	32	新					長寿命	B	B	B	B	C	71	

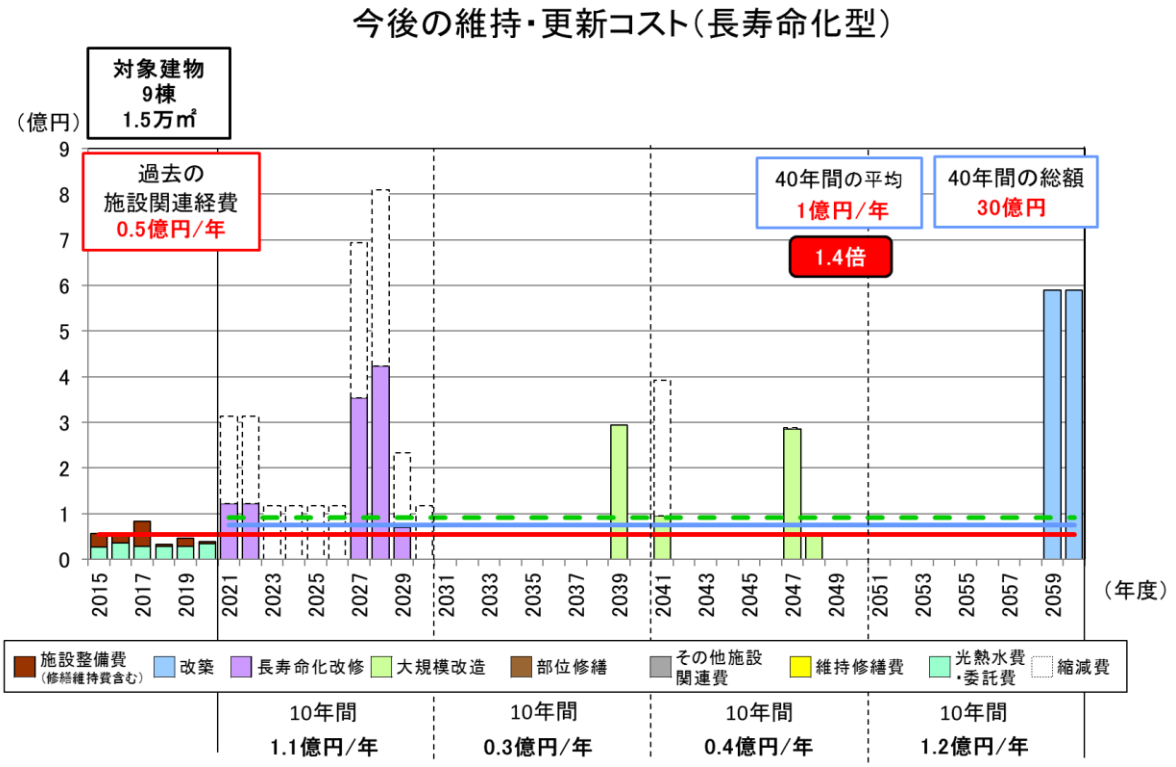
各施設の劣化状況を調査したところ、竜王小学校と竜王幼稚園については健全度が70 点以下となり、早急に対処する必要があるD評価を含む結果となった。しかしながら、両施設は建替え移転が検討中であることから今回の計画からは除くこととする。

それ以外の施設ではC評価が散見されるものの、大規模な劣化は進んでいないといえる。

２）今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）

建替え中心から改修による長寿命化に切り替えていくためには、計画的に機能向上と機能回復に向けた修繕・改修を建物全体でまとめて実施する必要がある。

長寿命化により 80 年に建物を長寿命化した場合、今後 40 年間の維持・更新コストは総額約 30 億円となり、従来の建替え中心の場合の 37 億円より総額 7 億円、約 19%の縮減となる。

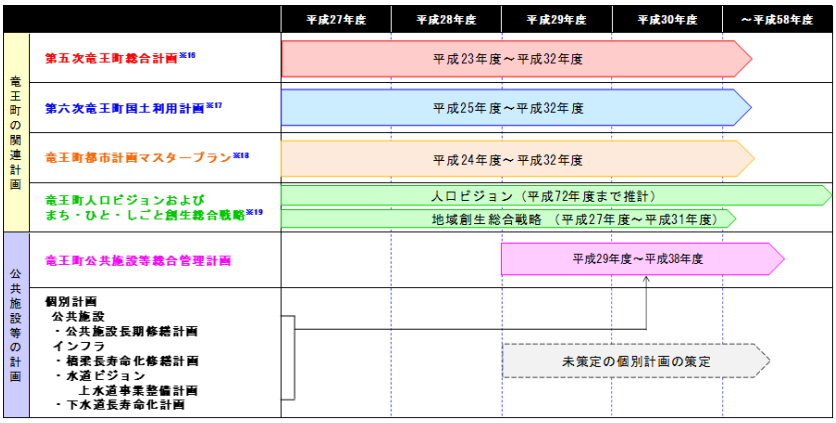


様式４－１

（４）学校施設整備の基本的な方針等

①　学校施設の規模・配置計画等の方針

１）学校施設の長寿命化計画の基本方針

公共施設等総合管理計画の基本方針（抜粋）	第１節　　公共施設等のマネジメントの考え方について 1　計画期間について 公共施設等の更新は、数十年間の期間を見据えた中長期的な視点にたった検討を行っていくことが求められます。本町においては、30 年後までに公共施設等の大規模改修と建替えピーク期の到来が予測され、これらの更新時期を見据えた計画の策定が求められることから、総合管理計画の対象期間は、平成 29 年度から平成 58 年度までの 30 年間を見通し、社会情勢の変化に適確に対応するため、10 年間を単位に計画を策定します。（図表 26） なお、総合管理計画は「第五次竜王町総合計画」を上位計画とし、その他の関連計画との整合性に留意していることから、関連計画の見直しの際には総合管理計画との整合を図ります。 **図表 26：計画期間と関連計画**  2　公共施設等のマネジメントの基本方針 公共施設等は、住民へのサービス提供の場であり、生活を支える基盤でもあります。また、住民生活にも深く関わりがあり、重要な資産といえます。しかし、本町の現状把握や課題分析の結果を踏まえると、これまでどおり安全で有効な施設を維持し続けることは、大幅な財政状況の好転が見込めない限り困難であるということが明らかになりました。 今後は、人口減少や住民ニーズに合わせた施設の保有量の適正化を図り、更新や維持管理にかかるコストの縮減や平準化を行うため、以下に掲げる基本方針により、必要となる取り組みや対策を実施します。

方針①【保有量の縮減】（総量の適正化）

住民の安全や、住民サービスに資する機能を確保しながら、既存施設を有効活用することで新たな整備を可能な限り抑制します。

また、社会情勢の変化や人口減少等に伴う住民ニーズの変化等を踏まえ、施設にかかる維持管理経費や更新費用を抑制するため、施設の複合化や統廃合（売却、民間委託等）による施設総量の適正化を図ります。

方針②【既存施設の保全】（質の維持・向上）

定期的に施設の点検・診断を行い、不具合が顕在化する前に修繕を実施する予防保全型の管理に努め、施設の性能、機能の維持を図ることにより、長寿命化を図ります。

また、計画的に修繕や耐震化を行い、利用者が安心して利用できる施設となるように努めます。

方針③【運営の見直し】（機能の効率化）

管理運営方針を見直し、民間資本や経営ノウハウの活用や周辺自治体との広域連携を検討し、効率的で効果的な施設運営を図ります。

また、職員の専門知識の蓄積や、公共施設等の保全・更新の業務に関する技術力向上に努めるとともに、中長期的な視点に立った人材の確保や育成に取り組みます。

方針④【維持管理経費の縮減】（コストの縮減）

施設の運営に当たっては、機能の効率化を図り、維持管理コストの縮減を図るとともに、省エネルギー化への取り組みを実施し、光熱水道費の縮減を図ります。

3　公共施設等の管理の数値目標

今後の公共施設等のマネジメントに取り組むために、成果や進捗状況を把握することや住民との課題意識の共有のため施設保有量の縮減目標を設定します。

現在の全ての施設をこれまでと同様に更新することは困難であり、限られた財源の中で、どのように公共施設等を維持管理し続けられるか検討を行ってきました。

施設の全体を把握したうえで、保有量の見直しを行いましたが、保有量の縮減のみでは、不足額を解消することが難しく、財源確保への取り組み、長寿命化による更新費用の平準化、維持管理経費の縮減や運営の見直しなど様々な取り組みが必要であるとの結果になりました。

施設の保有量については、人口の推計やこれまでの検討結果を踏まえ、長期的な目標として 30 年間で延床面積を 10%縮減することとします。

一方で今後、個別施設のあり方を検討し、各々の施設の方向性を決定していく必要があることから、直ちに保有量の縮減を行うことは困難であるため、短期的な目標として、施設の現状を考慮した以下の目標値を設定します。

ただし、数値目標は、計画の見直し時や社会情勢の変化に応じて適宜見直しを行います。

数値目標	10 年間で公共施設の延床面積を 2%程度縮減（平成 26 年度比）

公共施設等総合管理計画の施設類型別方針（抜粋） 【学校】 【子育て支援施設】（幼稚園）	維持管理、更新等に関する取り組み方針 【学校】 ・建築基準法第 12 条に基づき、専門家による 3 年に一度の法定点検（基礎、外壁、躯体、屋上・屋根、防火設備、避難施設等）を確実に実施します。また、点検・診断等の結果の履歴を蓄積することで、今後の老朽化対策等に活用します。 ・予防保全型による維持管理手法を導入することで長寿命化を図り、施設の安全性の確保と修繕や更新等に要する財政負担の平準化および抑制に努めます。 ・学校については、今までの検討を踏まえつつ、児童・生徒数の推移や空き教室の状況、地域の実情等を考慮し、施設の適正なあり方について検討します。 ・学校給食センターは、旧耐震基準の建物であり、施設の使用者の安全の確保や安心・安全な給食を安定して提供するために、これまでの学校給食センターあり方検討会議の答申を考慮し、本計画との整合を図りながら必要な対応を進めていきます。 【子育て支援施設】（幼稚園） ・施設管理者による日常点検や定期点検、専門家による法定点検等を実施し、劣化状況や危険度を把握します。また、点検・診断等の結果の履歴を蓄積することで、今後の老朽化対策等に活用します。 ・老朽化が進んでいる施設については、安心・安全で最適な保育環境の確保を目指し、計画的な修繕等を検討する必要があります。 ・予防保全型による維持管理手法を導入することで長寿命化を図り、施設の安全性の確保と修繕や更新等に要する財政負担の平準化および抑制に努めます。 ・幼稚園は、園児数の推移や、地域の実情、ニーズの変化等を考慮し、施設の適正な配置について検討します。

学校施設の長寿命化計画の基本方針	**１．計画的保全による長寿命化の推進** ・躯体の安全性を担保したうえで、可能な建物は 80 年に長寿命化 ・適切な維持管理、長寿命化による財政負担の平準化およびライフサイクルコストの削減 **２．施設保有量の最適化** ・学校園施設の適正規模・適正配置 ・他用途施設との共同設置・共有化・一括管理

	３．住民ニーズに対応した施設の活用 ・学校（園）の多目的利用・複合化により住民に身近で便利な地域のコミュニティ、スポーツ、防災拠点化 **４．まちづくりと連動したマネジメントの推進** ・国県、民間事業者および地域との連携・協働の推進 ・教育施設の整備および管理に関しては民間活用も考慮し、財政負担の軽減とまちの賑わいづくりを推進

２）学校施設の規模・配置計画等の方針

町内の３学校は町内にバランス良く配置されており、資産経営の中心となる施設用途であることから、原則として現在の配置を維持していく。幼稚園の２園については、園児数の減少と幼児教育ニーズの変化を踏まえつつ、統合や認定こども園化も考慮することとする。

○今後の学校施設の活用方針とその留意事項

ａ．現状の規模や機能を維持するケース

教育方法、内容等の変化に適応させることに留意しつつ、余裕教室などの空きスペースの有効活用をより一層進めることが重要である。

施設の転用が見込めない場合には、施設を保有しているだけでも日常的な維持管理のための費用が掛かることから、保有施設のうち不要となった部分を取り壊す「減築」を行うことも考えられる。

ｂ．現状の規模や機能を維持しつつ、他の公共施設との複合化・共有化を検討するケース

学校施設が地域の核となることも視野に入れながら、地域の実情に応じ、他の文教施設や福祉施設等の公共施設との複合化・共有化を図る場合、児童生徒等の安全や教育環境への十分な配慮が必要である。

ｃ．統合等を検討するケース

地域の実情に応じて、公立学校の統合等に関する検討が行われる場合には、その検討状況に留意しながら、実施計画を策定する必要がある。すなわち、施設の改修や日常的な維持管理等を効果的に進めていくためには、将来的な統合等の予定や施設の転用等の見込みを十分に考慮し、それらに応じて無駄のない適切な範囲・方法等を選定することが重要である。

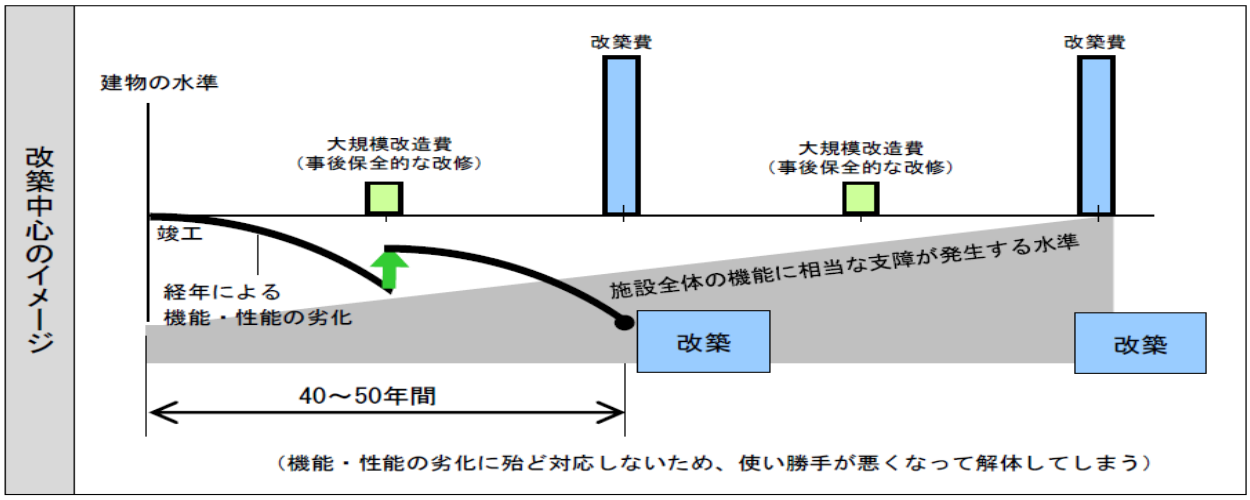
様式４－３

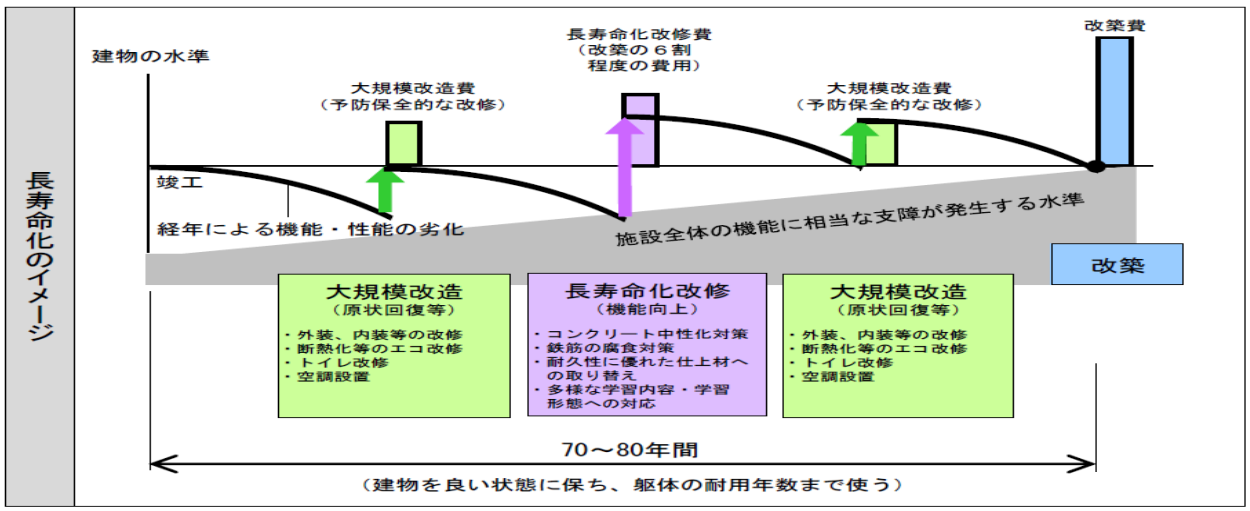
② 改修等の基本的な方針

１）長寿命化の方針

今後は、建替えから長寿命化改修による建物の長寿命化に切り替え、部位改修を併用した整備を行う。

改築中心から長寿命化への転換イメージ





２）目標使用年数、改修周期の設定

	目標使用年数	中規模改造の周期	長寿命化改修の周期
校舎	80年	築20年／40年	築40年
体育館	80年	築20年／40年	築40年

様式５

（５）基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

①　改修等の整備水準

長寿命化において配慮すべき性能に対して、各部の整備レベルを設定し、費用対効果を考慮して、最適な仕様を設定する。その際は**（２）学校施設の目指すべき姿**を考慮し、また、将来の社会的要求水準の高まりへの対応、建物の整備レベルの統一を図るものとする。

②　維持管理の項目・手法等

劣化状況の点検項目は以下のとおりとし、１２条点検と併せて３年ごとに実施する。

通し番号	xxxx-xx-x				
学校名	A学校	学校番号	1301	調査日	平成28年9月20日
建物名	校舎			記入者	○○
棟番号	1			建築年度	昭和44 年度（ 1969 年度）
構造種別	鉄筋コンクリート造	延床面積	2,562 ㎡	階数	地上 3 階 地下 0 階

３ 年ごとに点検を実施

部位	仕様（該当する項目にチェック）	工事履歴（部位の更新） 年度	工事内容	劣化状況（複数回答可）	箇所数	特記事項	評価
1 屋根 屋上	□ アスファルト保護防水	H7	防水改修	□ 降雨時に雨漏りがある		EXP.J金物に脱落がある	C
	□ アスファルト露出防水			■ 天井等に雨漏り痕がある	2		
	■ シート防水、塗膜防水			□ 防水層に膨れ・破れ等がある			
	□ 勾配屋根（長尺金属板、折板）			□ 屋根葺材に錆・損傷がある			
	□ 勾配屋根（スレート、瓦類）			■ 笠木・立上り等に損傷がある			
	□ その他の屋根 （ ）			□ 樋やﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝを目視点検できない			
				□ 既存点検等で指摘がある			
2 外壁	■ 塗仕上げ	H3	外壁改修	■ 鉄筋が見えているところがある	5	北側の劣化	D
	■ タイル張り、石張り	H10	耐震補強	■ 外壁から漏水がある			
	□ 金属系パネル			■ 塗装の剥がれ	多数		
	□ コンクリート系パネル（ALC等）			■ タイルや石が剥がれている			
	□ その他の外壁 （ ）			□ 大きな亀裂がある			
	■ アルミ製サッシ			□ 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	□ 鋼製サッシ			□ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	□ 断熱サッシ、省エネガラス			□ 外部手すり等の錆・腐朽			
				□ 既存点検等で指摘がある			

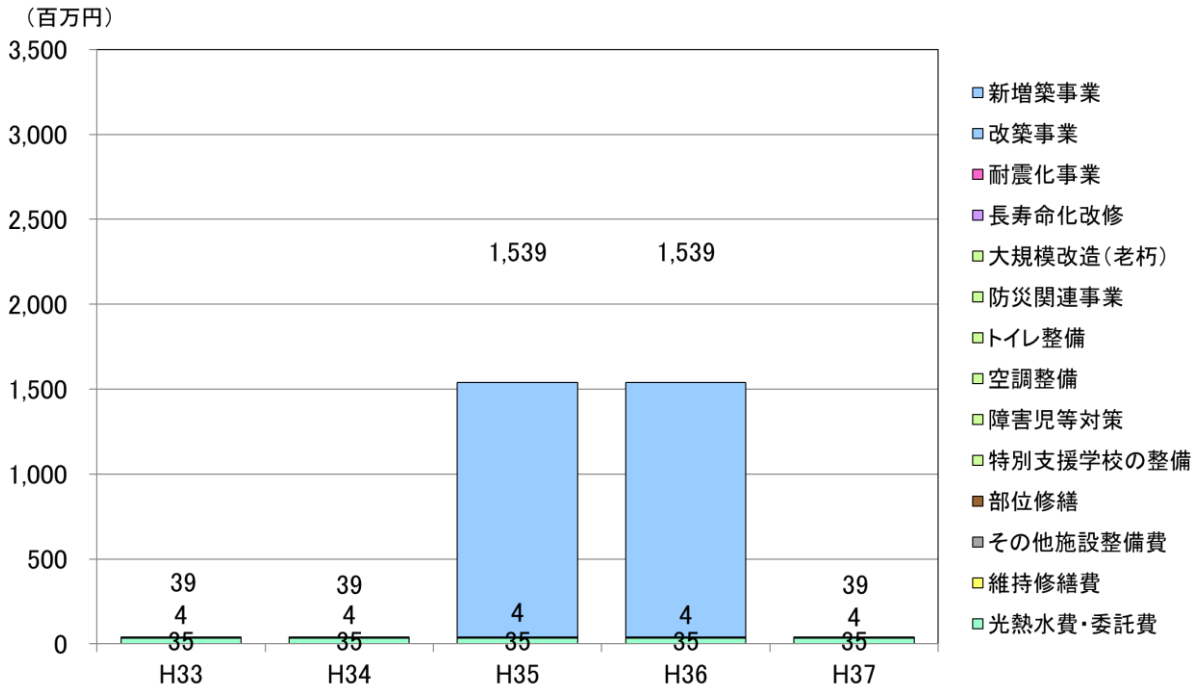
部位	改修・点検項目	改修・点検年度	特記事項（改修内容及び点検等による指摘事項）	評価
3 内部仕上（床・壁・天井）（内部建具）（間仕切等）（照明器具）（エアコン）等	■ 老朽改修	H5	大規模改造	B
	□ エコ改修			
	□ トイレ改修			
	□ 法令適合			
	□ 校内LAN			
	□ 空調設置			
	□ 障害児等対策			
	□ 防犯対策			
	□ 構造体の耐震対策			
	□ 非構造部材の耐震対策			
	□ その他、内部改修工事			
4 電気設備	■ 分電盤改修	H22		A
	□ 配線等の敷設工事			
	■ 昇降設備保守点検	H18	指摘無し	
	□ その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	□ 給水配管改修			C
	□ 排水配管改修			
	■ 消防設備の点検	H27	指摘への対応済み	
	□ その他、機械設備改修工事			

様式６－１

（６）長寿命化の実施計画

①　改修等の優先順位付けと実施計画

今後５年間の計画は、コンパクトシティ構想に位置づけられた竜王小学校の改築移転を主とし、他の施設については通常の維持管理の範囲で機能の維持を図る。

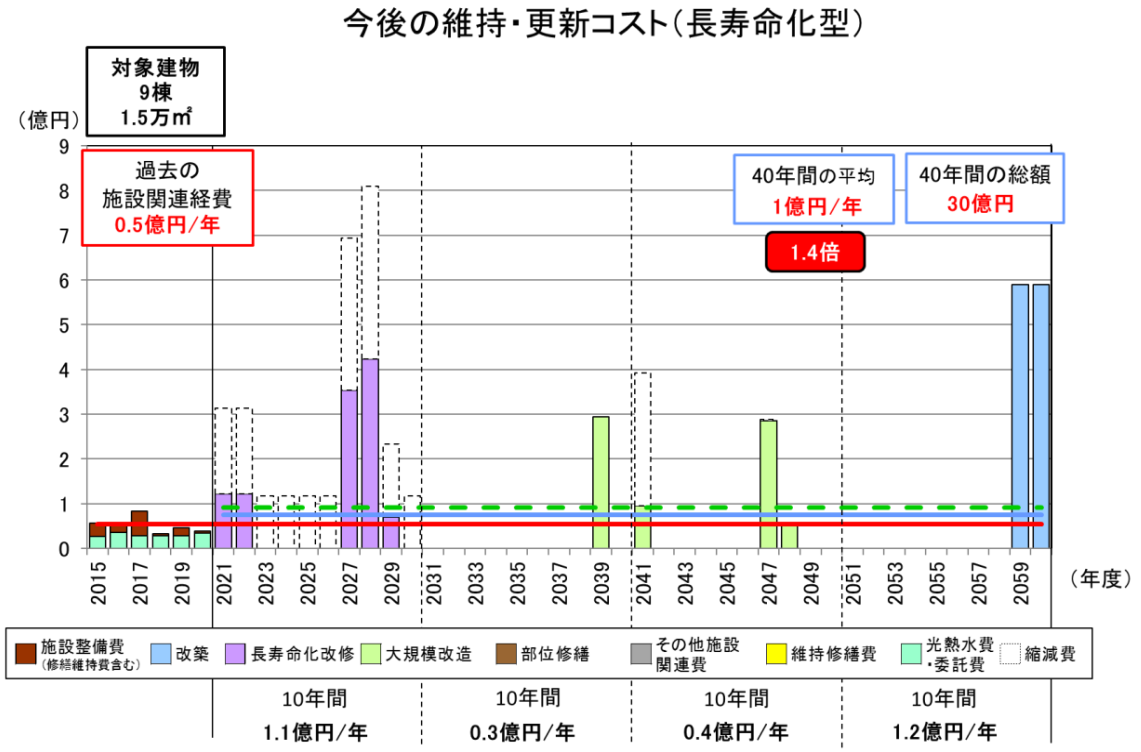


様式６－２

②　長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果～維持・更新の課題と今後の方針～

40 年間の計画は、長寿命化による維持・更新コストの総額約 30 億円を平準化する。今後５年間をこれまでの投資的経費 0.5 億円/年に抑える。一方で竜王小学校の改築移転費用約 30 億円は長寿命化計画とは別で計上するものとし、以下のグラフ上では考慮しない。

また、竜王小学校の改築移転に伴い以下の試算グラフ上の長寿命化改修（竜王中学校）については、繰り延べるものとする。



様式７

（７）長寿命化計画の継続的運用方針

①　情報基盤の整備と活用

公共施設保全計画等を活用し、施設の基本情報、光熱水費をはじめとする運営経費、工事履歴や劣化情報を一元管理できるシステムの構築を目指す。

②　推進体制等の整備

学校施設の所管課である教育委員会教育総務課を中心に、本計画を含む学校施設のマネジメントを行っていくが、必要に応じて公共施設等総合管理計画検討委員会等を活用して全庁的な体制で対応を図っていく。

＜考えられる体制整備に向けた検討項目＞

●日常的な施設管理に対する支援体制
- 専属の技術職員の配置
- 技術職員の兼務・併任等による連携
- 地方公共団体間の広域連携
- 退職した技術職員の再任用
- 都道府県からの派遣職員など技術的指導、支援
- 民間事業者への委託（学校単位、全校包括委託等）
- 研修等を通じた職員の知見の習得や意識啓発
- 施設管理マニュアルの整備（技術者向け、学校管理者向け）

●計画の進捗管理に対する支援体制
- 教育委員会と首長部局との全庁横断的な検討体制
- 財政との連動
- 人口推計、他の公共施設の整備状況との整合、調整

③　フォローアップ

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するものである。

実施にあたっては竜王町総合計画のなかで年次および個別の事業費を精査していく。また、事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映して本計画は見直しを図るものとする。